

### 3 病原体検査状況

## (1) 病原体検査の概要

### ア 疾患別、月別検査受入状況 (P30 表 12 参照)

受入検体件数 375 件 (全数把握対象感染症 112 件、病原体定点対象感染症 263 件) で、多い順に感染性胃腸炎 101 件、腸管出血性大腸菌感染症 73 件、インフルエンザ 57 件、流行性角結膜炎 26 件、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び無菌性髄膜炎各 14 件等である。全数把握対象感染症については、5 月から 10 月にかけて腸管出血性大腸菌感染症の検体が多く、4 月から 10 月にかけて日本紅斑熱、麻疹及び風しんの検体の搬入が相次いだ。定点把握感染症については、年間を通じて感染性胃腸炎及び流行性角結膜炎の検体が多く、冬期と春期を中心にインフルエンザの検体が搬入された。

### イ 疾患別病原体分離・検出状況 (参照; P33 表 13-a、P34 表 13-b)

16 疾患を中心に 13 種類 31 型 (血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む) のウイルス・リケッチア・細菌が分離・検出された。主な疾患から分離・検出されたものは、以下のとおりである。

- (ア) 腸管出血性大腸菌感染症; O157 が 1 件、O103 が 2 件分離同定された。また、血清型が不明な菌株 1 件について検査を実施したところ、O145 であった。
- (イ) 日本紅斑熱; 日本紅斑熱リケッチアが 2 件検出された。陽性判定は、すべて遺伝子検査によった。
- (ウ) 急性脳炎; コクサッキーウイルス A4 型が 1 件検出された。
- (エ) 侵襲性肺炎球菌感染症; 肺炎球菌 2 株について、血清型の試験を行った。
- (オ) 風しん; 風しんウイルスが 1 件検出された。
- (カ) 咽頭結膜熱; アデノウイルス 9 件が分離・検出された。そのうち、2 型が 4 件、1 型が 3 件、型別不能 2 件であった。
- (キ) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎; A 群溶血性レンサ球菌が 3 件分離された。血清型は T1 型が 1 件で、残り 2 件は型別不能であった。
- (ク) 感染性胃腸炎 (P31 図 4 参照); ノロウイルス、サポウイルス、A 群ロタウイルス、アデノウイルス 40/41 型が検出された。ノロウイルス GII 型が 23 件と最も多く、次いで A 群ロタウイルス 12 件、サポウイルス 7 件、アデノウイルス 40/41 型 3 件の順であった。
- (ケ) 感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る); A 群ロタウイルスが 5 件検出された。
- (コ) 手足口病 (P31 図 5 参照); エコーウイルス 18 型が 2 件、コクサッキーウイルス 71 型及び型別不能が各 1 件分離・検出された。
- (サ) ヘルパンギーナ (P32 図 6 参照); コクサッキーウイルス A4 型が 3 件、コクサッキーウイルス A2 型及びエコーウイルス 18 型が各 2 件、型別不能が 1 件分離・検出された。
- (シ) インフルエンザ; インフルエンザが 52 件検出された。B 型山形系統が 22 件と最も多く、AH3 型が 20 件、A2009 型が 10 件の順であった。B 型ビクトリア系

続は検出されなかった。

- (ス) **流行性角結膜炎**；アデノウイルス 20 件が分離・検出された。そのうち、54 型が 14 件と最も多く、56 型が 3 件等であった。
- (セ) **無菌性髄膜炎**；エンテロウイルスが 5 件、ヘルペスウイルスが 2 件、インフルエンザウイルスが 1 件分離検出された。そのうち、エンテロウイルスについては、エコーウイルス 18 型が 2 件等であった。
- (ソ) **RS ウイルス感染症**；RS ウイルスが 4 件検出され、3 件は B 亜型、1 件は A 亜型であった。
- (タ) **水痘**；ヘルペスウイルス 3 が 2 件検出された。

表12 採取月別検体受入状況(平成30年1月～平成30年12月)

臨床診断名(疑いも含む)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
全数把握対象感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4				5	2	11	32	15	4			73	
	A型肝炎							1						1	
	日本紅斑熱	1			3	2		1	2		1			10	
	つつが虫病								1					1	
	SFTS	1			1						1			3	
	デング熱								1					1	
	チクングニア								1					1	
	侵襲性肺炎球菌感染症		2												2
	急性脳炎							1							1
	麻しん				1	3	3			3	1				11
	風しん						1	1		5	1				8
小計		6	2	0	5	10	6	15	37	23	8	0	0	112	
病原体定点対象感染症	咽頭結膜熱		2		1	1	3	1		2	2			12	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	3	1	1	1	1	2		2	1	1		14	
	感染性胃腸炎	7	7	8	8	12	11	10	11	11	8	2	6	101	
	ロタウイルス感染性胃腸炎			1	1							1	2	5	
	手足口病	1						1	2			2	2	8	
	ヘルパンギーナ							4	3		1	3		11	
	流行性耳下腺炎													0	
	インフルエンザ	17	20	9	4		3		2	1			1	57	
	急性出血性結膜炎			1		1									2
	流行性角結膜炎	2	3	2	3	2	1		1	2	2	4	4	26	
	細菌性髄膜炎														0
	無菌性髄膜炎	1	2	1	1	1			3	3	1	1		14	
	伝染性紅斑														0
	RSウイルス感染症			1	1	2	1			1	1	1	1	9	
	マイコプラズマ肺炎														0
	水痘	1	1			1							1		4
突発性発疹														0	
小計		30	38	24	20	21	20	18	22	22	16	16	16	263	
計		36	40	24	25	31	26	33	59	45	24	16	16	375	

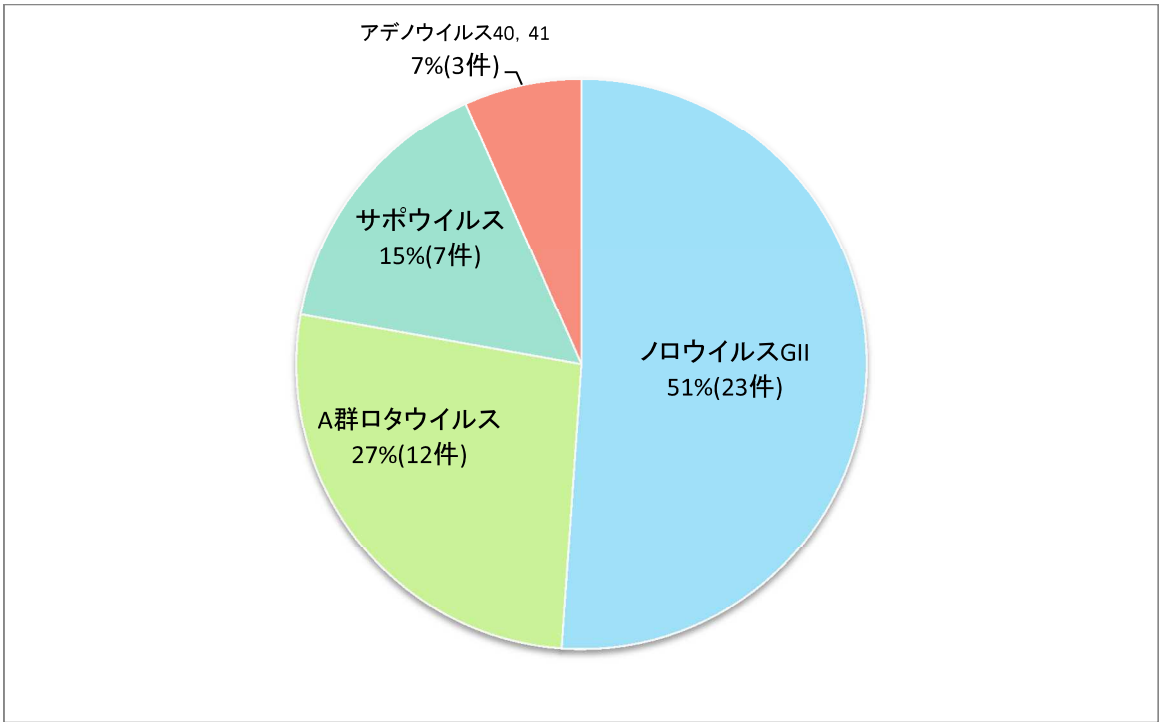


図4 感染性胃腸炎診断の便検体から検出されたウイルスの割合

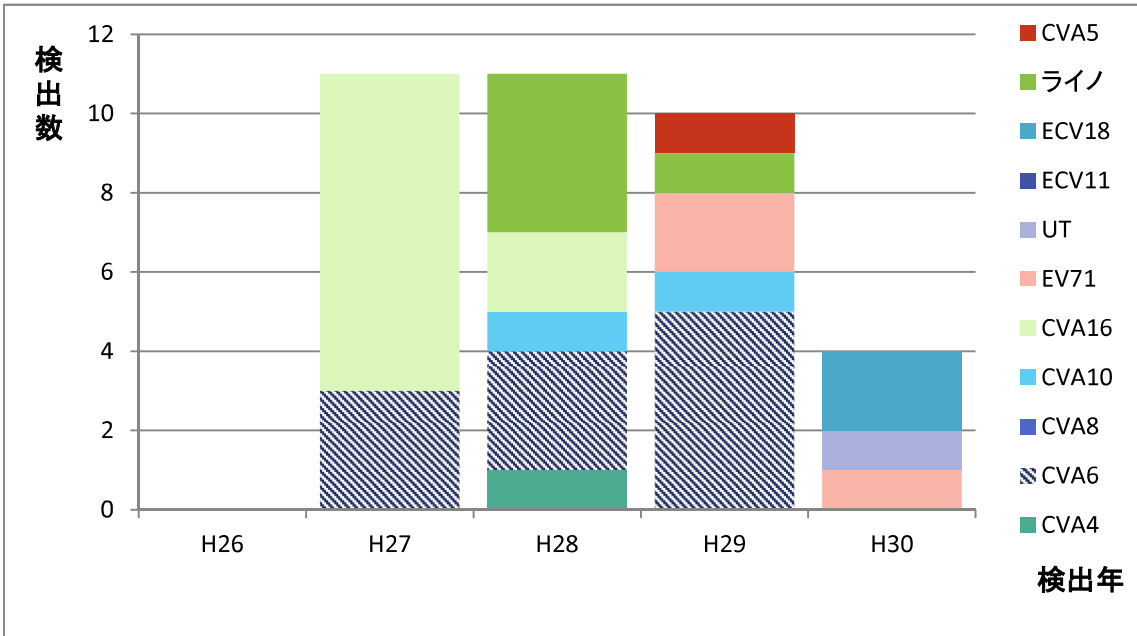


図5 年別手足口病と診断された患者の咽頭ぬぐい液検体からの検出ウイルス

※CV：コクサッキーウイルス UT：型別不能

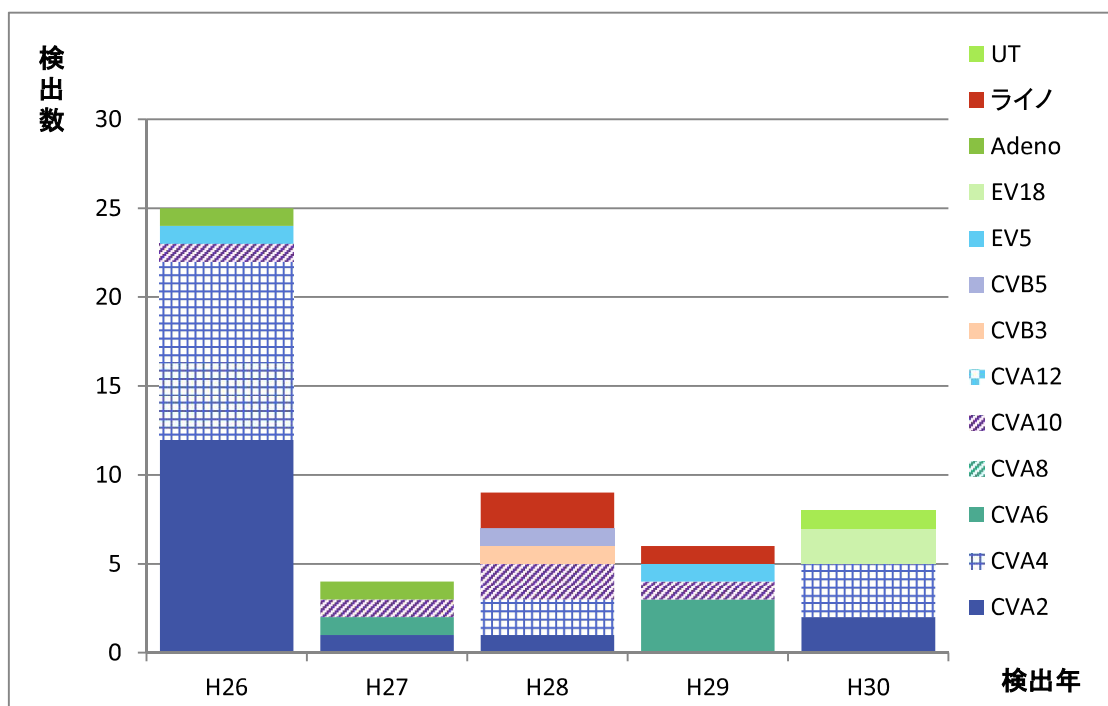


図6 年別ヘルパンギーナと診断された患者の咽頭ぬぐい液検体からの検出ウイルス  
 ※CV：コクサッキーウイルス UT：型別不能

表13-a 全数把握感染症 疾病別 病原体分離・検出状況(平成30年1月～12月)

		病原体の種類											計			
		腸管出血性大腸菌O26	腸管出血性大腸菌O103	腸管出血性大腸菌O145	腸管出血性大腸菌O157	日本紅斑熱リケッチア	つつが虫リケッチア	SFTSウイルス	デングウイルス	チクングニアウイルス	コクサッキーウイルス A4型	肺炎球菌		麻しんウイルス	風しんウイルス	
3類	腸管出血性大腸菌感染症		2	1	1											4
4類	日本紅斑熱					2										2
	つつが虫病															0
	SFTS															0
	デング熱															0
	チクングニア熱															0
5類	急性脳炎										1					1
	侵襲性肺炎球菌感染症											2				2
	麻しん															0
	風しん													1		1
計		0	2	1	1	2	0	0	0	0	1	2	0	1	10	

